

『マダニにご注意！～SFTS（重症熱性血小板減少症候群）のお話～』

地域総合医療センター医師 鈴木 佐緒里

皆さんこんにちは。川上診療所で月曜外来を担当しております鈴木佐緒里と申します。

地域の皆様の健康を守るお手伝いができれば、と思いながら日々診療にあたっております。どうぞよろしくお願ひいたします。

今回のセンター通信は、自然豊かな地域では特に注意が必要な、年々増加してきているマダニを介した感染症である『SFTS（重症熱性血小板減少症候群）』のお話です。

●SFTS（重症熱性血小板減少症候群）はどんな病気？

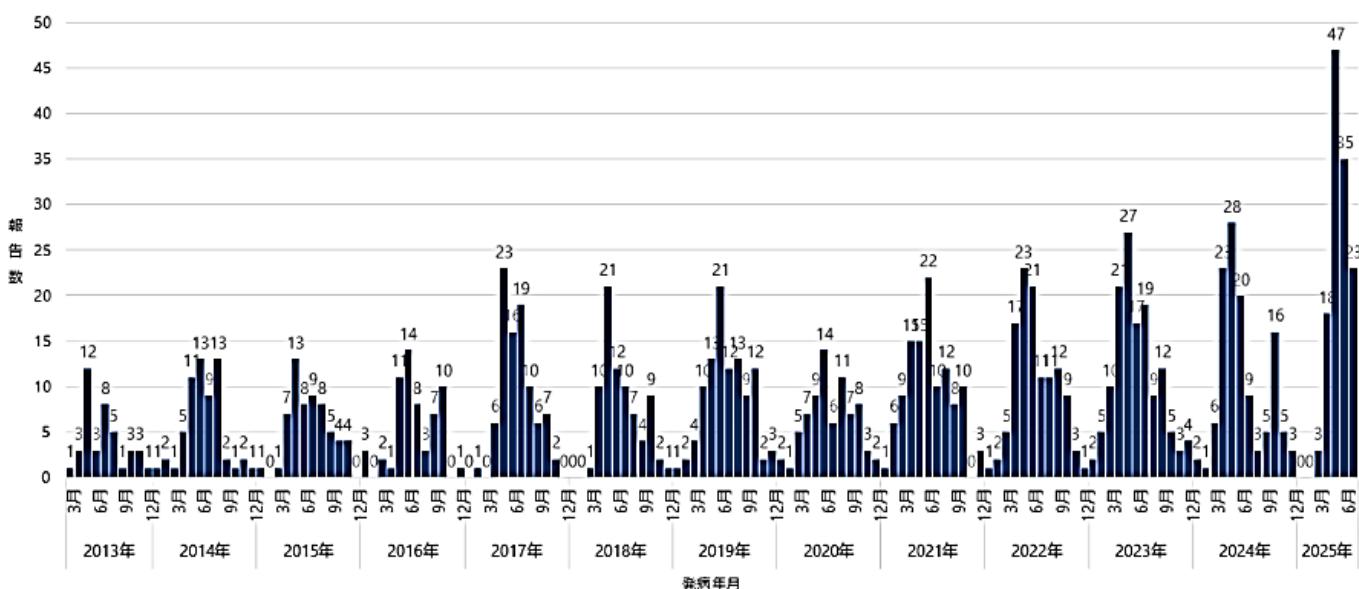
マダニにより媒介される SFTS ウィルスによる感染症で、主な初期症状は発熱、全身倦怠感、消化器症状（食欲低下、嘔気、嘔吐、下痢、腹痛）で、重症化し死亡することもあります。

●日本で SFTS 患者はどれくらい発生しているの？

2013年1月、SFTS の患者（2012年秋に発症）が国内で初めて確認されて以降、2020年まで毎年60～100名程度の患者が報告されていました。2021年以降は毎年100名を超える患者が報告されており、2023年は過去最高の133名の患者が報告されています。

岐阜県での発生は1例報告されており、岐阜県内で感染したと推定されています。

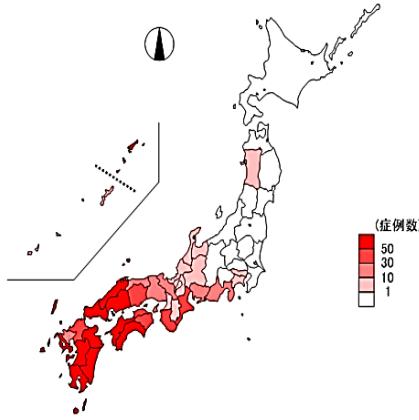
図1. 2013年3月4日以降に届け出られたSFTS症例の発病時期(n=1,173、2025年7月31日現在)



●どのように感染するの？

多くの場合、ウイルスを保有するマダニに刺されて感染すると考えられますが、すべてのマダニがウイルスを保有しているわけではありません。SFTS ウィルスに感染したペットのネコやイヌとの接触により感染したと考えられる症例も報告されています。また、2024年3月に国内で初めて SFTS 感染患者から医療従事者への感染が報告されています。

図2. SFTS届出症例の届出地域 (n=1,185、2025年7月31日現在)



国立健康危機管理研究機構 感染症情報提供サイトから引用

●予防方法は？

マダニに刺されないようにすることが重要です。特にマダニの活動が盛んな春から秋にかけてはマダニに刺される危険性が高まります。

草むらや藪など、マダニが多く生息する場所に入る場合には、長袖・長ズボン（シャツの裾はズボンの中に、ズボンの裾は靴下や長靴の中に入れる、または登山用スパッツを着用する）、足を完全に覆う靴（サンダル等は避ける）、帽子・手袋を着用し、首にタオルを巻く等、肌の露出を少なくすることが大事です。服は明るい色のもの（マダニを目視で確認しやすい）がおすすめです。

マダニに効果があると記載されている虫よけ剤も市販されています。虫よけ剤を使用することでマダニの付着数は減少しますが、マダニの付着を完全に防ぐわけではありませんので注意が必要です。

屋外活動後は入浴し、マダニに刺されていないか確認して下さい。特に首・耳・わきの下・足の付け根・手首・膝の裏などがポイントです。

明るい色の服を着る
(マダニが付いているか確認しやすいため)



東京都健康安全研究センターHP から引用

●マダニに刺された場合はどうすればいいの？

無理に引き抜こうとするとマダニの一部が皮膚内に残って化膿したり、マダニの体液を逆流させて病原体が体内に入りやすくしてしまう恐れがあります。医療機関（皮膚科など）で処置（マダニの除去、洗浄など）を受けてください。また、マダニに刺された後、数週間程度は体調の変化に注意をし、発熱等の症状が現れた場合はすみやかに医療機関で診察を受けて下さい。その際マダニに刺されたことを医師に説明して下さい。